第5講　2018年度 試行調査 第5問（漢文）

第5問

次の【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】は、いずれも「狙公（そこう）」（猿飼いの親方）と「狙（そ）」（猿）とのやりとりを描いたものである。【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】を読んで、後の問い（問1～5）に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。（配点　50）

【文章Ⅰ】

猿飼いの親方が芧（とち）の実を分け与えるのに、「朝三つにして夕方四つにしよう、」といったところ、猿どもはみな怒った。「それでは朝四つにして夕方三つにしよう、」といったところ、猿どもはみな悦（よろこ）んだという。

（金谷治（かなやおさむ）訳注『荘子』による。）

【文章Ⅱ】

楚(注1)ニ有リ二養ヒテレ狙ヲ以テ為スレ生(1)者一。楚人謂フ二之ヲ

狙（そ）公（こう）ト一。旦(注2)日必ズ部(注3)二‐分シテ衆狙ヲ于庭一ニ、使 A 老

狙率以之山中、求草木之実。賦(注4)シテ二什（じふ）ノ

一以自(注5)奉。或不給、則加鞭(注6)箠焉。群狙皆畏苦之、弗敢違也。一日、有小狙謂衆狙曰、B「山之果、公所樹与。」曰、「否也。天生也。」曰、「非公不得而取与。」曰、「否也。皆得而取也。」曰、「然則吾何仮於彼而為之役乎。」言未既、衆狙皆寤。其夕、相与伺狙公之寝、破柵毀柙、取其(2)積、相携而入于林中、不復帰。狙公卒餒而死。

郁(注7)離子曰、「世有以術使民而無

メモ欄

道（注8）揆一者上、其レ如キ二狙公ノ一乎。C惟其昏而未レ覚也。一旦有レラバ開レクコト之ヲ、其ノ術窮セント矣。」

（劉基（りゅうき）『郁離子』による。）

（注）
1 楚――古代中国の国名の一つ。
2 旦日――明け方。
3 部分――グループごとに分ける。
4 賦二什一一――十分の一を徴収する。
5 自奉――自らの暮らしをまかなう。
6 鞭箠――むち。
7 郁離子――著者劉基の自称。
8 道揆――道理にかなった決まり。

メモ欄

問１ 傍線部(1)「生」・(2)「積」の意味として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は［1］・［2］。

(1)「生」［1］

① 往生
② 生計
③ 生成
④ 畜生
⑤ 発生

(2)「積」［2］

① 積極
② 積年
③ 積分
④ 蓄積
⑤ 容積

問２ 傍線部Ａ「使 老 狙 率 以 之 山 中、求 草 木 之 実」の返り点・送り仮名の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **3** 。

① 使ム[下] 老 狙ヲシテ 率ヰテ 以テ 之キ[二] 山 中[一]ニ、求メ[中] 草 木 之 実ヲ[上]
　老狙をして率(ひき)ゐて以て山中に之(ゆ)き、草木の実を求めしむ

② 使ヒテ[二] 老 狙[一]ヲ 率ネ 以テ 之カシメ[二] 山 中[一]ニ、求ム[二] 草 木 之 実[一]ヲ
　老狙を使ひて率(おほむ)ね以て山中に之かしめ、草木の実を求む

③ 使メテ[二] 老 狙ヲシテ 率[一]ヘ 以テ 之キ[二] 山 中[一]ニ、求ム[二] 草 木 之 実[一]ヲ
　老狙をして率(とら)へしめて以て山中に之き、草木の実を求む

④ 使シ 老 狙 率ヰテ 以テ 之カバ[二] 山 中[一]ニ、求ム[二] 草 木 之 実[一]ヲ
　使(も)し老狙率(ひき)ゐて以て山中に之かば、草木の実を求む

⑤ 使ム[下] 老 狙ヲバ 率ヘテ 以テ 之キ[二] 山 中[一]ニ、求メ[中] 草 木 之 実ヲ[上]
　老狙をば率(とら)へて以て山中に之き、草木の実を求めしむ

問３ 傍線部Ｂ「山 之 果、公 所 樹 与」の書き下し文とその解釈との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 4 。

① 山の果は、公の樹(う)うる所か
　山の木の実は、猿飼いの親方が植えたものか

② 山の果は、公の所の樹(き)か
　山の木の実は、猿飼いの親方の土地の木に生(な)ったのか

③ 山の果は、公の樹(う)ゑて与ふる所か
　山の木の実は、猿飼いの親方が植えて分け与えているものなのか

④ 山の果は、公の所に樹(う)うるか
　山の木の実は、猿飼いの親方の土地に植えたものか

⑤ 山の果は、公の樹(う)うる所を与ふるか
　山の木の実は、猿飼いの親方が植えたものを分け与えたのか

問４ 傍線部Ｃ「惟 其 昏 而 未㆑ 覚 也」の解釈として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 5 。

① ただ民たちが疎くてこれまで気付かなかっただけである
② ただ民たちがそれまでのやり方に満足していただけである
③ ただ猿たちがそれまでのやり方に満足しなかっただけである
④ ただ猿飼いの親方がそれまでのやり方のままにしただけである
⑤ ただ猿飼いの親方が疎くて事態の変化にまだ気付いていなかっただけである

問５ 次に掲げるのは、授業の中で**【文章Ⅰ】**と**【文章Ⅱ】**について話し合った生徒の会話である。これを読んで、後の(i)〜(iii)の問いに答えよ。

生徒A **【文章Ⅰ】**のエピソードは、有名な故事成語になっているね。
生徒B それって何だったかな。[X]というような意味になるんだっけ。
生徒C そうそう。もう一つの**【文章Ⅱ】**では、猿飼いの親方は散々な目に遭っているね。**【文章Ⅰ】**と**【文章Ⅱ】**とでは、何が違ったんだろう。
生徒A **【文章Ⅰ】**では、猿飼いの親方は言葉で猿を操っているね。
生徒B **【文章Ⅱ】**では、猿飼いの親方はむちで猿を従わせているよ。
生徒C **【文章Ⅰ】**では、猿飼いの親方の言葉に猿が丸め込まれてしまうけど……。
生徒A **【文章Ⅱ】**では、[Y]が運命の分かれ目だよね。これで猿飼いの親方と猿との関係が変わってしまった。
生徒B **【文章Ⅱ】**の最後で郁離子は、[Z]と言っているよね。
生徒C だからこそ、**【文章Ⅱ】**の猿飼いの親方は、「其の術窮せん。」ということになったわけか。

(i) [X]に入る有名な故事成語の意味として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。解答番号は[6]。

① おおよそ同じだが細かな違いがあること
② 朝に命令を下し、その日の夕方になるとそれを改めること
③ 二つの物事がくい違って、話のつじつまが合わないこと
④ 朝に指摘された過ちを夕方には改めること
⑤ 内容を改めないで口先だけでごまかすこと

(ii) **Y** に入る最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **7** 。

① 猿飼いの親方がむちを打って猿をおどすようになったこと
② 猿飼いの親方が草木の実をすべて取るようになったこと
③ 小猿が猿たちに素朴な問いを投げかけたこと
④ 老猿が小猿に猿飼いの親方の素性を教えたこと
⑤ 老猿の指示で猿たちが林の中に逃げてしまったこと

(iii) **Z** に入る最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **8** 。

① 世の中には「術」によって民を使うばかりで、「道揆」に合うかを考えない猿飼いの親方のような者がいる
② 世の中には「術」をころころ変えて民を使い、「道揆」に沿わない猿飼いの親方のような者がいる
③ 世の中には「術」をめぐらせて民を使い、「道揆」を知らない民に反抗される猿飼いの親方のような者がいる
④ 世の中には「術」によって民を使おうとして、賞罰が「道揆」に合わない猿飼いの親方のような者がいる
⑤ 世の中には「術」で民をきびしく使い、民から「道揆」よりも多くをむさぼる猿飼いの親方のような者がいる

第5講　2018年度 試行調査 第5問（漢文） 解答

■ 2018年度 試行調査

問題番号（配点）	設　問	解答番号	正　解	配　点
第５問（50）	1	1	2	4
		2	4	4
	2	3	1	7
	3	4	1	7
	4	5	1	7
	5	6	5	7
		7	3	7
		8	1	7

■現代語訳

楚の国に猿を飼って生計を立てている者がいた。楚の人はこの者を狙公といった。明け方に必ず大勢の猿を庭でグループごとに分けて、老猿に率いさせて山の中に行かせ、草木の実を求めさせた。十分の一を徴収して自らの暮らしをまかなっていた。あるときはもし供出しないと、むちで打った。猿の群れは皆恐れてこれに苦しんでいたが、決して逆らわなかった。ある日、小猿が猿の群れに言うには、「山の木の実は、猿飼いの親方（＝狙公）が植えたものか」と。（猿たちが）言うには、「そうではない。天が与えたのだ」と。（小猿が）言うには、「親方でなければ手に入れることはできないのか」と。（猿たちが）言うには、「そうではない。誰でも手に入れることができるのだ」と。（小猿が）言うには、「そうならば我々はどうして彼に（木の実を）借り受けて彼のために木の実を取る役をしているのか」と。（小猿の）言葉がまだ終わらないうちに、猿たちは皆気づいた。その夕方、（猿たちは）ともに狙公が寝るのを見はからい、柵を破り檻（おり）を壊して、狙公の蓄えた木の実を取り、皆で持って林の中に入り、二度と帰らなかった。狙公はとうとう飢えて死んだ。

郁離子〔＝筆者〕が言うには、「世に策略で民を使って道理にかなった決まりがない者は、ちょうど狙公のようなものであろうか。ただ民たちが疎くてこれまで気付かなかっただけである。いったん理解することがあれば、その策略は行き詰まってしまうだろう」と。